

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【穀物、東海農政局】

愛知県 JA愛知北（新基本計画実装・農業構造転換支援事業：R6～R7）

- 老朽化した2か所の共同利用施設を再編し、**広域ライスセンターに機能を集約**。稲・大麦・小麦に対応したライン整備により、**集荷量の増加**を図る。
- 機能集約による**物流の効率化**、選別能力の増強による**高品質化**が、**農家所得の向上**を後押しすることが期待される。

現状・課題並びに再編集約等の内容

【産地の現状・課題】

- 既存の大口カントリーエレベーター、犬山南部ライスセンターのいずれも、老朽化により**保守修繕費が増大**していた。
- 既存施設では、カメムシ被害等の**品質課題**、**新たな生産や流通体系**（小麦増産、フレコン流通）に**対応できなくな**っていた。

【再編集約等の内容】

- 大口CE、犬山南部RCの稼働を終了し、新設する犬山ライスセンターに**再編集約**（統合）。



<大口CE>
1985年竣工
取扱：水稻・大麦



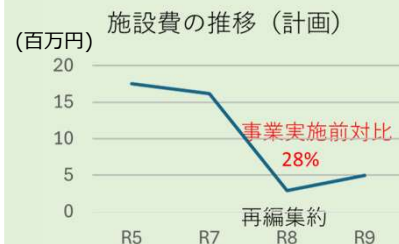
<犬山南部RC>
1993年竣工
取扱：水稻



《犬山RC》
2026年竣工
取扱：水稻・大麦・小麦

再編集約・合理化等で期待される効果

- 保守修繕費、人件費の低減等により、**乾燥調製施設の運営コストを大幅に圧縮**。
- 色彩選別機の導入により、水稻のカメムシ被害粒等を除去することで**1等比率が向上**して高品質化。
- 施設の高機能化によるフレコン出荷や一貫パレチゼーションに対応して、**物流問題を解消**。
- 貯留ビンを導入し、**新たに小麦を受け入れることで、産地での生産を拡大**。



<フレコン出荷による流通改善>

他産地へのメッセージ

- 再編集約計画にあたり利用者アンケートの実施や、利用者説明会を開催。統合により遠方となる大口地区の利用者へは、同地区に荷受のサテライト拠点を設置し、犬山RCへの横持ち支援を実施。
- 組合長が自ら再編集約計画の説明および市町からの補助を地元市町に相談することで、更なる加速化の強化について迅速な合意形成を得ることができた。